

第8回 南部地区街づくり協議会 議事録（要旨）

1. 開会あいさつ（並河市長）

皆さまお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。とりわけ先日のじゃん市については大盛会であり、大変お疲れ様でした。最近、本協議会で出てきた事業以外についても、柳本マルシェや県立美術館における桜井市との連携展示も実現している。また、議論に出ていたふるさと納税制度については、大変好評をいただいているところ。

本日はそういった様々な動きを全体像として再度整理し、次のステップに向かう組み立てとベクトルを見出す会議にしたいと思う。

2. 事務局連絡（前回協議会議事録の確認）

3. 議 事

（1）南部地区活性化プロジェクトエリア別整理と強化イメージ

（資料P 1～3により、事務局から説明）

- ・これまでの協議会の議論やご意見を踏まえ、広範囲にわたる南部地区を朝和と柳本地域ごとに捉え、散らばった魅力を集約しエリアを絞った展開を行う。実際にそれぞれの地域で活動していただいている方々にもご参画いただき、分科会のような形でエリアの具体的な方向性や事業について検討を進めていきたい。

【以下、委員の発言要旨】

- ・トレイルセンターについては、朝和・柳本地域の産品や情報もしっかり発信できる、また、龍王山の登山口としてもしっかり機能するように整備を進めているところしかし、他のハード整備について直ちに予定をできているわけではないが、ご意見もいただいている道の駅については誘致を目指している国際芸術家村に道の駅の機能を付加することを検討されているようなので、しっかりと本市に取ってこれるように進めたいと考えている。
- ・黒塚古墳周辺の市の施設を十分に活用できているか、特に障害者ふれあいセンターの利用促進についても検討を深め、黒塚古墳資料館と黒塚古墳を含めたエリア全体が、天理駅前整備を進めている内容と同じ機能を担っていくことができるのではと考えている。
- ・旧武家屋敷については、地域団体の方々が拠点として利用を検討されているとのお話を聞いているので、現状の公民館に寄っていただくということに加えて、活動団体や住民の方々が自分たちの施設と言うイメージで、トレイルセンターとも機能の住み分けをした施設活用を検討できないかと考えている。
- ・地域で様々に取り組んでいただいている活性化の取り組みと施設の活用をうまくつなげて、地域の賑わいをどう作り出していくかについて議論を進めたい。

- ・朝和地区においては、昨年の柳本地区に引き続き、奈良県との協働でまちづくりマップの作製を進めていただいている。大和神社などの地域の魅力をしっかりと可視化できるようなマップ作成いただき、長柄駅を降りた観光客のみならず、より広く地域の魅力を知っていただけるような物ができればよいと思う。

(3) 地区に関する取り組み状況について

- ・柳本マルシェについて、これまで3回開催させていただき来場者も右肩上がりになってきて良い人の流れをつくれていると考えている。客からは商品の種類の要望もいただいております、出品者にとっても様々な作物の需要を直に受けることができる良い機会になっている。また、柳本マルシェでの取り組みに加えて、上長岡ファームとして落花生の収穫体験を企画・実施した。大阪からを含む18組にご参加いただき大変喜んでいただいた。
- ・トレイルセンターの再整備やプレイベントについて、地元の方々が関心を寄せているので、相互に寄り合えるような良い形での調整を願いたい。
- ・天理市ブランド構築の一環として、トレイルセンターの休憩機能・情報発信機能の再整備を含むリノベーション事業のための空間デザインを検討しているが、その持たせるべき機能やしつらえを確認すべくプレイベントを計画している。
- ・ブランディング構築支援業務を委託している graf より、地元の柳本倶楽部とタイアップした物販や食の提供といったイベントの企画・提案があり、11月14日のでてくてくてんりウォーキングフェスタ同時開催し、必要な検証や情報収集を行う。
- ・地域団体によるもてなしや先ほどご紹介いただいた柳本マルシェも同時開催していただくので、当日は地域全体が盛り上がるように進めたい。
- ・今回のプレイベントの開催とリノベーション後のトレイルセンターの運営体制は全く別であり、今後、地域の方々の理解も得ながら事業者の選定等を進めていきたい。
- ・でてくてくてんりでは柳本マルシェの会場を通るようにルートを変更したと聞いているが、169号線の地下を通る道を少し整備しなければならないのでは。
- ・他の事例では、軌道に乗るまでは智恵を出し合って取り組みを進められるが、うまくいった途端に失速するケースがある。参画する方が増え組織が大きくなると様々な考え方が出てくるので、まずはルール作りを固めることも大切と思う。
- ・柳本地区では個々に非常にやる気のある方が多いが、国の地方創生に沿って進めていくには、皆が協同して活躍できる事業を展開しなければならないと思う。以前より提案している道の駅構想は、物販や情報発信に加えて地域住民の拠点にも成りえるので、そういった点も意識をしている。自治連合会で滋賀県の農を中心とした道の駅へ視察を行う予定。南部地区全体に活かせる内容を収集し、また報告する。
- ・作成している総合戦略において、朝和・柳本地域が生活圏として今後も成立し続けられるかどうかは非常に重要である。車が使えない方が増えてくれば徒歩圏内で生活物資を揃えることが難しくなり、住み続けられる地域として成立しなくなる。
- ・県整備が進む丸条バイパスにより、地域内に入り込んだコミュニティバス運行や公共施設の機能付加を検討し、生活圏として維持できる地域づくりを進めていきたい。

- ・柳本地区の買い物については、昨年の春ごろまで小さなスーパーがあったが、最終的には潰れてしまった。小さな店舗では良い物を売っているが値段が高く、折り合いがつかなかったのでは。店舗誘致をと言う声もあるが、なかなか難しいと思う。
- ・総合戦略に係る調査で南部地区の高齢化率の伸びや高齢者の単身世帯の割合は天理駅周辺地区に比べて高い傾向にある。対策として、地域の皆さんが気軽に集まっていられるような流れの整備や農業を活かした楽しく暮らせる仕組み、あるいは交通や流通の部分が大切なので、今後も引き続きの議案として検討していきたい。
- ・定住人口と交流人口の中で人の移動をうまく整理する必要がある。高齢者が移動しやすくする方法と外から来た人が観光で移動する方法をうまくマッチングできるかどうかが鍵。例えば、観光客が山の辺の道から長柄の街中へ移動する際に、気軽に移動できるコミュニティバスのような手段があれば良いだろうし、長柄駅と柳本駅は一駅だが、天理版のパスのようなものがあったら面白いのではないかと。また、自転車や歩きと言う手段をうまく整理して提案をしなければならないと思う。
- ・トレイルセンターの整備により、拠点からの時間と距離感、電車とのアクセスをうまく見せることができれば、積極的な周遊観光を進めることができる。
- ・長柄駅周辺にはあまり駐車場がないが、西側の新池公園にいくらか駐車スペースがある。観光客が停めても良いという整理ができれば、車で来ていただいて長柄駅を拠点に地区内を回っていただくというルートも組めるのでは。
- ・両地区で活用をさせていただけるような空き家物件も出てきているが、管理等ができるのであれば借りられるという状況。事業者の誘致や予算をかけて大きな改修するのは難しい中で、地域の方々が集まれるようなサロン空間として、地元から要望があれば所有者との間を仲介させていただくことは可能。
- ・場所作りと並行してもものづくりもしっかりやっていかなければならない。不便な場所でも名物があるとたくさんの方が訪れるという事例も多い。取り組みを進めているふるさと納税の返礼品では圧倒的に柿の人気の高いが、今後どれだけ製品を作り出せるかが地域の魅力を高めるためには必須である。
- ・奈良県の中川政七商店とタイアップした、ものづくりの事業者支援については、採用された4件のうち2件に天理の事業者が選ばれている。
- ・本市においても展開の第1歩として、ブランディングプロデューサーの graf 服部氏と県内でご活躍されているくるみの木代表の石村氏、中川政七商店代表の中川氏による、ものづくりについての対談形式の講演会を予定している。市内事業者の皆様の機運を高め、次年度に予定している支援事業につなげていきたいと考えている。
- ・市役所地下の食堂跡へハローワークの誘致が決まっている。そこへ産業振興課が入り市内企業の情報の集約と提供がしっかりできる窓口を設ける予定。働きたい方と市内企業の求人情報をしっかりとつなぐ役割を市が果たしたい。
- ・新しい働き方提案として、旧福住幼稚園及び本通商店街の空き店舗を活用したテレワークセンターの設置を進めている。大阪等の職場に行かなくても市内のセンターへ行けば仕事ができる体制ができれば、雇用増や定住にもつなげることができる。

- ・テレワークの取り組みについては、就労改革部門で全国のモデルケースとして国の資料にも取り上げられた。今はまだ職種等が限られているが、仕組みづくりをしっかりと進めて柔軟な働き方ができる街としてイメージ化を行い、天理に住み続けながら大阪・京都に勤めるということが気軽に実現できるようにしたい。
- ・開催中の浮世絵展に並行して、「山の辺の道を辿る」をテーマに天理市と桜井市の連携ギャラリー展示を行っている。浮世絵版画は江戸時代の人々の往来を描いたものであり、記紀万葉の時代に人々が往来した山の辺の道について合わせて企画を行っている。10月～現在までで約1万人の来場者があり、トータルでは3万人程度の来場が見込まれる。外国の方も1割近く入館されている。
- ・皆様のご協力をいただき今年もじゃんじゃん市を開催させていただいた。今回はプロスポーツ選手による少年サッカー教室や少年野球教室のほか、麵1グランプリという麵を使った料理コンテストや体育館での仮装バトミントンなどもご好評をいただき、全体で5千人を超える来場があった。
- ・今後はハード面を強化するのかイベント等のソフト面を強化するのか、もう少し焦点を絞り、現状・課題を踏まえて具体的な事業の検討をしていけばより議論が深まるのではと思う。
- ・これまで朝和・柳本を地区別として考えてきたところを、全体像として整理することも本議会の目的の一つである。抽象的な部分については予算付けや実際の担い手等の課題もあり、直ちに具体化できるばかりではないが、できることをより明確にすることでこれからの方向性やプロジェクトをお示しできるようにしたい。

5. 次回の日程と主な協議内容

次回第9回協議会は1月末を予定。後日日程調整を行う。

6. 閉 会 -16:00-